

芸術作品の表装から襖の張り替えまで 幅広い仕事をこなす下町の表具師

江戸表具 田尻表具店

日本画壇のトップクラスの作家の書画の表装から、一般家庭の襖の張り替えまで、幅広い業務を手掛ける。表装の仕事は繊細な技術や経験が必要とされる一方で、屏風など大型の表具は数十kgにもおよぶため体力も必須だ。表具師の田尻さんは、体育学部出身の鍛えた体で今日も重い屏風と向き合う。



式場やホテルに納入する大型の金屏風を張る田尻和久さん

江戸表具 田尻表具店

職人：田尻和久

所在地：東京都荒川区東尾久3-16-9

T E L : 03-3895-7429

F A X : 03-3895-7427

E-mail : tajirihyoguten@gmail.com

都電の行き交う下町に店舗を構える田尻表具店。田尻和久さんが仕事に触れたのは小学生の頃だ。「学校から帰ると下張りなどの準備がしてあって、やらないと遊びに行かせてもらえないんです。それが嫌だね」。仕事を継ぐ気はなく、大学では体育学部に進学し、教師を目指した。しかし就職して1年後に父が病に倒れ、悩んだ挙句に跡を継ぐことを決意。いざ仕事を始める

と「手が覚えていた」という。すでに家業を支えていた母と姉、近県に住む父の兄弟子からも学び、キャリアは30年を超えた。

表具には屏風、掛軸、額、襖などさまざまな種類があるが、依頼が多いのは屏風の仕事だ。お祝いの席に欠かせない金屏風や、お茶道具である風炉先屏風などのほか、日本画家の出展用屏風も手掛ける。これまでも川端龍子の内弟子



屏風に張る金箔押の紙の四方に糊付けをする



糊付けした金箔押の紙を骨組みに張る



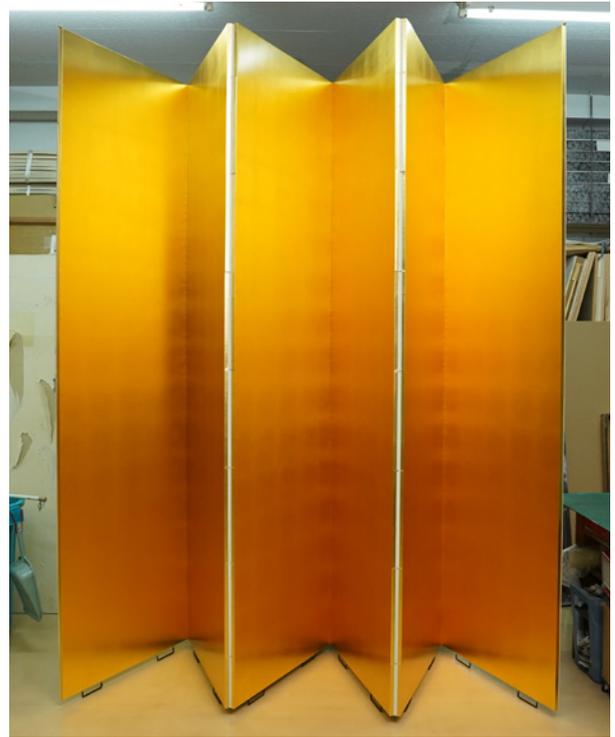
屏風の骨組みは杉材を使用



年季の入った愛用の糊刷毛



糊をつける糊刷毛にはさまざまな種類がある



この金屏風は 30kg あるが、田尻さんは軽々と担ぐ

である牧進氏や、平松礼二氏、岡信孝氏など著名な日本画家の大作を仕立ててきた。数千万円の値が付く高価なものもあり、緊張感を伴う仕事だ。田尻さんは古い掛軸や額の修復も行うが、「預かり物は一点しかない。世間での評価や市場価値は関係なく気を遣う」という。どんな仕事にも真摯に向き合う姿勢からは、職人の気概を感じるが「職人だから、伝統技術だからとまつ

り上げられるのは苦手」と淡々としている。

昨年は東京都の職人ステップアップ事業を活用し、業者に依頼してホームページを一新。イメージ通りのサイトが完成し、問い合わせも増えた。今は近隣の畳店などとも連携し、家庭の襖の張り替えなども積極的にこなす。どんな仕事でも気軽に頼めるような「町の表具師」として、体力の続く限り仕事を続けるつもりだ。